

India Bi-Weekly Vol. 88

(対象期間: 2014年9月1日～2014年9月12日)



インドの代表的な株価指数であるSENSEX指数は、インド経済の持直しやモディ首相来日を機に日本からの投資が増加するとの期待から史上最高値を更新しました。27,300ポイントを超えた後は利益確定売りに押されましたが、対象期間で見ると1.6%の上昇となりました。8月29日に発表された4-6月期の実質国内総生産(GDP)成長率は前年同期比+5.7%と9四半期ぶりの高い成長率となりました。為替市場では、円安インドルピー高が進みました。モディ首相来日については、ニュース欄をご参照ください。

[株式市場]SENSEX指数の推移 (2002年12月31日～2014年9月12日)



[為替市場]インドルピーの対円レートの推移 (2002年12月31日～2014年9月12日)



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
中小型株は大型株を上回る上昇となり、ボンベイ中型株指数と中小型株指数は対象期間中にそれぞれ、+7.4%、+8.8%となりました。SENSEX指数を構成する30銘柄中23銘柄が対象期間中に上昇する中、ドイツとスウェーデンでの抗ぜんそく薬の販売開始を9月1日に発表した医薬品メーカーのシプラが対象期間中に19.1%上昇して値上り率トップとなりました。

為替市場では、米国の早期利上げ観測や欧州中央銀行(ECB)による追加金融緩和などを受け、1米ドル=104円台から107円台まで円安が進みました。このような状況下、インドルピーは対米ドルではほぼ横ばいの動きとなり、対象期間中に0.1%安とわずかな下落に留まる一方、対円では3.1%のインドルピー高となりました。

[ニュース]

	モディ首相来日: 幅広い層の日本人と対話
政治	インドのモディ首相は、8月30日から9月3日まで日本を訪れました。1日の日印首脳会談でモディ首相は、「21世紀はアジアの世紀と言われるが、それがどのような世紀になるかは日印および日印関係によって決まると言っても過言ではない」と述べ、日本との関係を強化する姿勢を明らかにしました。安倍首相は、今後5年間で3.5兆円規模の投融資実現に向けて努力するなどインドの経済発展を支援する方針を示しました。モディ首相は、2日に聖心女子大学で学生向け、都内ホテルで一般向けの講演を行うなど、幅広い層の日本人と対話の場が持たれました。
経済	鉱工業生産と国内乗用車販売台数: 前年比増加続く
経済	9月12日に発表されたインドの7月の鉱工業生産指数は前年同月比+0.5%で、市場予想の同+1.8%を下回りました。鉱工業生産指数は昨年度(2013年4月～2014年3月)は前年度比-0.1%でしたが、今年度(2014年4月～2015年3月)に入って4ヵ月連続で前年同月比プラスを続けており、6月は当初発表の前年同月比+3.4%から今回は同+3.9%に上方修正されました。7月に生産拡大ペースが鈍化した背景には、降雨の影響で鉱業や鉄鋼・セメントなど建設関連の生産活動が鈍ったためという見方があります。一方、9月10日に発表された8月の国内乗用車販売台数は前年同月比+12.5%と7月の同+6.5%から伸びが加速し、4ヵ月連続で前年同月比プラスとなりました。
経済	経常赤字の大幅縮小とインフレの低下: 通貨の安定をもたらす
経済	9月1日に発表されたインドの4-6月期の経常赤字は対国内総生産(GDP)比1.7%と、前年同期の同4.8%から赤字幅が大幅に縮小しました。また、9月12日に発表された8月の消費者物価指数(CPI)上昇率は前年同月比+7.8%でした。CPI上昇率は、昨年は前年同月比+9～11%台、今年5月までは同+8%台で推移しましたが、6月から8月までは3ヵ月連続で同+7%台に鈍化しています。昨年は5月から8月にかけて急激なインドルピー安が進行しましたが、経常赤字の大幅縮小に加え、インフレの落ち着きが通貨の安定をもたらすことが期待されます。

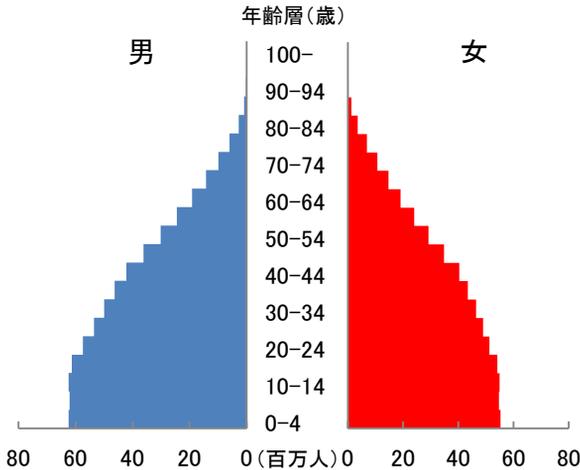
英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

Vol.88 (対象期間: 2014年9月1日～2014年9月12日)

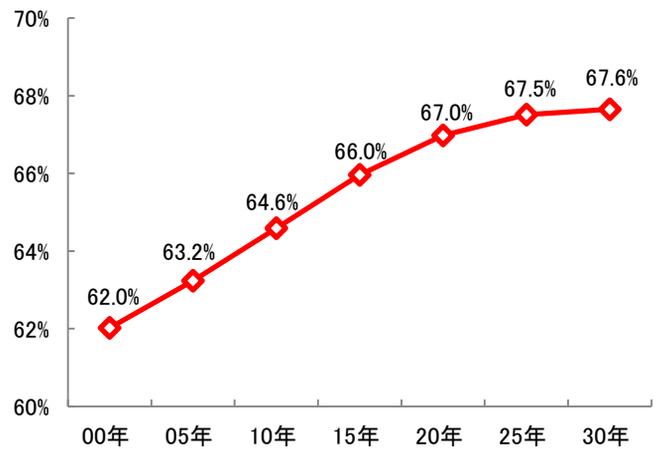
[インド基礎講座] インドの人口構成: 若年人口多く、生産年齢人口の割合は2030年頃まで上昇

現在12億人以上の人口を抱え世界第2位の人口大国であるインドは、2020年代半ばには中国を抜いて世界最大の人口大国になると予想されています。インドの人口構成は2014年現在、年少人口(0～14歳)が28.5%、生産年齢人口(15～64歳)が65.7%、高齢人口(65歳～)が5.8%と推定されています(図表1)。年少人口が13.2%、生産年齢人口が61.0%、高齢人口が25.8%と推定される日本の人口構成と比べてインドは若年層がはるかに多いことがわかります。インドで生産年齢人口の占める割合は、年少者の成長に伴って2030年頃まで上昇を続けると予想されています(図表2)。インドのモディ首相は9月2日に都内で行った講演会で、「民主主義、若い人材、需要の3つがそろっているのはインドだけ。人口の65%を35歳以下が占める。」と述べており、若年人口が多く、生産年齢人口が増え続ける見通しであることが、インドの投資先としての大きな魅力の一つであると考えられます。

(図表1) インドの人口ピラミッド(男女別)
(2014年推定)



(図表2) インドの生産年齢人口(15～64歳)比率の推移
(2000年～2030年)



出所: 上記の図表はいずれも、米国税務調査局のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。図表2の2015年以降は米国税務調査局による予想値。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について
165年以上の歴史を有する英国の金融サービスグループの一員です。

- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。
- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。
- 最終親会社グループはいち早くアジアの成長性に着目し、アジアでは14の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。最終親会社グループの運用資産総額は、2014年6月末現在、約4,570億ポンド(約78兆円、1ポンド=172.63円)に上ります。



アジア株式の運用拠点であるイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドについて

- アジア地域を幅広くカバーする資産運用会社で、インド株式に関する専門知識と豊富な経験を最大限活用した運用を行います。
- 運用を担当するファンド・マネジャーやアナリスト・チームが徹底した企業のファンダメンタルズの調査・分析を行い、その結果をもとにポートフォリオの構築を行います。

イーストスプリング・インベストメンツの属するグループのインドの運用会社(ICICIAM)について

- 1993年にインド大手の民間銀行ICICI銀行の資産運用会社として設立され、1998年からはイーストスプリング・インベストメンツの属するグループとの合併で事業を展開しています。ICICI銀行は、50年以上の歴史を持ち、2014年3月末現在、総資産は約5兆9,464億ルピー(約10兆1,921億円、1ルピー=1.714円で換算)となっています。
- 設立以来、インドで資産運用事業に注力している、インド大手の運用会社です。2014年6月末現在、運用資産総額は約1兆1,805億ルピー(インドにおけるシェア約12.0%)となっています(出所: Association of Mutual Funds in India)。

[当資料に関しご留意いただきたい事項]

当資料は、インドの株式市場と政治、経済、文化等にかかる情報提供のみを目的として、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社(「当社」)が株式会社DZHフィナンシャルリサーチに情報提供を依頼し作成したもので、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。当資料は信頼できると判断された材料を使い、十分な注意を払って作成していますが、当社および株式会社DZHフィナンシャルリサーチは、必ずしもその正確性、完全性をお約束するものではありません。また、掲載された企業につきましては、あくまで直近のトピックとしてご紹介させていただいたものであり、個別銘柄の売買の推奨を意図したのではなく、当社が運用を行う投資信託への組入れを示唆するものでもありません。